

令和2年度中央畜産技術研修会実施計画

※末尾の注意書きを参照のこと

NO	講座名	期間	日数	講義内容の概要(項目)	募集人数	受講対象者	
1	飼料A・B (専門)	A：飼料を取り巻く諸状況の認識のために B：食品残さの飼料化を推進するために	8.25 ～8.28	4	流通飼料をめぐる現状と課題、飼料の安全確保、飼料給与と栄養、給与飼料と家畜への影響、飼料設計の基本、流通飼料、添加物の安全性と品質保持、高付加価値畜産物の生産と飼料、食品残さ等飼料化技術、食品残さ利用の養豚農場実践事例、 <u>エコイート</u> をめぐる現状と課題、飼料化技術、課題討論等	40	畜産職域等に配属された国、地方公共団体、畜産関係団体及び農協等生産者団体の職員で当該分野に配属されて、原則5年以内の者、農業に従事する者
2	新任畜産技術職員 (基礎)	畜産技術者としての基礎知識のために	9.1 ～9.3	3	畜産各分野の基礎知識(酪農、肉用牛、養豚・養鶏・特用畜産、飼料、畜産環境保全、家畜衛生)、畜産関係主要法令、現地研修、課題討論等	60	国、地方公共団体及び畜産関係団体の職員で、畜産領域に配属されて、原則3年以内の者、農業に従事する者
3	畜産環境保全 (堆肥化処理・利用技術) (専門)	畜産環境を取り巻く諸状況の認識のために	9.7 ～9.11	5	肥料取締法の概要、堆肥化処理の原理と発酵に必要な条件、各種の堆肥化法と施設・攪拌移送機、処理施設の設計審査維持管理数値、家畜別各種堆肥化方式の実施設事例、ランニングコストの計算法と算出チェック、施設の設計審査・維持管理法の実技演習、 <u>堆肥の利用促進</u> 、畜産環境をめぐる情勢	50	畜産職域等に配属された国、地方公共団体、畜産関係団体及び農協等農業生産者団体の職員、農業に従事する者
4	放牧 (専門)	肉用牛の放牧の推進のために	9.23 ～9.25	3	<u>経営視点から見た放牧技術、放牧牛の衛生管理、放牧管理技術、放牧草地の更新について、水田・里山・耕作放棄地への肉用牛放牧、放牧の実務、総合討論、高張力線牧柵・簡易電気牧柵の設置実習</u>	30	畜産職域に配属された国、地方公共団体、畜産関係団体及び農協等生産者団体の職員で、当該分野に配属されて、原則5年以内の者、農業に従事する者
5	畜産環境保全 (耕畜連携堆肥利用促進) (専門)	堆肥施用コーディネーターの養成のために	9.30 ～10.2	3	畜産環境をめぐる情勢、優良堆肥の条件と施用の基本、大規模畑作における施用の基本と現場利用事例、 <u>耕畜連携における堆肥利用の経済性と組織対応、地域における堆肥の循環利用の促進、水田作における堆肥施用の基本と現場利用、野菜作における堆肥施用のポイント、総合討議等</u>	30	畜産職域等に配属された国、地方公共団体、畜産関係団体及び農協等農業生産者団体の職員、農業に従事する者

NO	講座名	期 間	日数	講義内容の概要 (項目)	募集人数	受講対象者
6	畜産新技術 A・B (総合)	A：繁殖技術の 向上のために B：畜産関係新 技術に係る諸状 況の認識のため	10.6 ～10.9	4 新技術の動向、遺伝子組換え豚、牛の繁殖・ 育種(ET、受精卵移植、雌雄判別、クローン、ゲノム)、 新技術と行政、SNP解析、DNA解析の改良、排 せつ物の栄養生理学的制御技術、ストレスが家畜 生産に及ぼす影響と軽減技術、現地研修、 <u>精 密繁殖管理・分娩管理システムについて</u>	40	国、地方公共団体、畜産 関係団体及び農協等生産 者団体の職員で、当該技 術分野に配属された者、 又は関連業務の経験のあ る者、農業に従事する者
7	肉用牛生産技術 指導者養成 (専門)	効率的生産技術 の指導者育成確 保のために	10.12 ～10.16	5 肉用牛をめぐる情勢、家畜改良センター業務 の概要と牛個体識別業務の現状、経営管理、 繁殖牛の管理技術、哺乳子牛の生理と飼養管 理、改良と登録の実務、受精卵移植・雌雄判 別技術、肉質評価技術、肉用牛審査実習	30	国、地方公共団体、畜産 関係団体及び農協等生産 者団体の職員で、当該関 連技術の指導を担当する 分野に配属されて、原則5 年以内の者、農業に従事 する者
8	畜産環境保全 (臭気対策技術) (専門)	畜産環境を取り 巻く諸状況の認 識のために	11.4 ～11.6	3 <u>臭気防止の基礎、臭気の分析・測定技術(実習)、 畜産環境をめぐる情勢、設備・装置による脱臭 技術の基本と各種脱臭法、悪臭対策の基本と 苦情対応</u>	40	畜産職域等に配属された 国、地方公共団体、畜産 関係団体及び農協等農業 生産者団体の職員、農業 に従事する者
9	酪 農 (基礎)	酪農を取り巻く 諸状況の認識の ために	11.10 ～11.13	4 牛乳・乳製品の情勢、貿易交渉の情勢、自給飼 料生産用機械の最新動向、乳用牛のベストパ フォーマンス実現のために、 <u>乳牛飼養管理技 術、酪農現地研修、乳牛改良の動向、疾病予 防対策、牛群検定と農家指導、課題討論等、 牛から学ぶ牛の管理、酪農ヘルパーを巡る情 勢</u>	48	畜産職域に配属された国、 地方公共団体、畜産関係 団体及び農協等生産者団 体の職員で、当該分野に 配属されて、原則5年以 内の者、農業に従事する者
10	肉 用 牛 (基 礎)	肉用牛を取り巻 く諸状況の認識 のために	11.24 ～11.27	4 肉用牛改良の情勢、牛肉流通、肉用牛のブラン ド化、牛疾病対策と農場HACCP、食肉に関す る意識調査、肉用牛(肥育)の栄養管理、和牛 遺伝資源と改良、肉用牛育種改良、子牛の健 康と生産性向上、肉用牛経営のデータ管理、 肉用牛の放牧管理、一貫経営について、課題 討論等	50	畜産職域に配属された国、 地方公共団体、畜産関係 団体及び農協等生産者団 体の職員で、当該分野に 配属されて、原則5年以 内の者、農業に従事する者

NO	講座名	講 座 名	期 間	日数	講義内容の概要（項目）	募集人数	受講対象者
11	自給飼料 (専門)	自給飼料を取り 巻く諸状況の認 識のために	12.1 ～12.3	3	飼料をめぐる情勢、 <u>公共牧場の運営改善技術</u> <u>について、飼料作物の品種、飼料作物の栽培</u> <u>技術、飼料生産関係の農業機械、TMRセンター</u> <u>の現状と課題及び展開方法、水田における飼</u> <u>料作物の生産拡大と耕畜連携の意義、稲発酵</u> <u>粗飼料の生産・収穫・加工調整技術、飼料用</u> <u>米の生産・収穫・加工調整技術、総合討論</u>	50	畜産職域等に配属された 国、地方公共団体、畜産 関係団体及び農協等生産 者団体の職員で、当該分 野に配属されて、原則5年 以内の者、農業に従事す る者
12	肉用牛繁殖経営 新規参入 (基礎)	肉用牛繁殖経営 への円滑な新規 参入推進のため に	12.7 ～12.11	5	肉用牛をめぐる情勢、 <u>食肉流通の現状と課題、</u> <u>牛の飼養管理、子牛の衛生管理技術及び飼養</u> <u>管理、ふん尿処理技術、飼料生産・調整、繁</u> <u>殖牛の放牧管理、放牧草地の造成管理利用、</u> <u>肉質評価技術、牛の個体識別業務の現状、自</u> <u>己経営診断手法のための記録・記帳、現地研</u> <u>修</u>	15	畜産職域に配属された国、 地方公共団体、畜産関係 団体及び農協等農業生産 者団体の職員で、当該部 門の指導に携わる初任指 導職員、農業に従事する 者
13	養 蜂 (専門)	養蜂現場で必要 な知識の普及の ために 【隔年開催】	12.14 ～12.15	2	養蜂をめぐる情勢、 <u>花粉交配用昆虫をめぐる</u> <u>情勢、養蜂における農薬被害対策、養蜂にお</u> <u>ける蜜源植物の知識と重要性、蜜蜂の飼養と</u> <u>疾病対策</u>	60	畜産職域に配属された国、 地方公共団体、養蜂業等 に従事する者、養蜂関係 団体の職員
14	畜産物安全行政 (総合)	畜産物の安全確 保と消費者の信 頼確保等に関す る取組みの理解 のために	1.12 ～1.15	4	生産段階のHACCP方式、 <u>JGAPの状況について、</u> <u>食品表示、人畜共通伝染病の動向・食品安全</u> <u>委員会におけるリスク評価、動物用医薬品・飼料</u> <u>のリスク管理、牛のトレーサビリティ制度、東京食肉市</u> <u>場の個体識別システム、リスクコミュニケーションの推進、畜</u> <u>産物の安全性、大規模放射能汚染への対応、</u> <u>リスク管理とは、危機管理とは、安全な食品</u> <u>とは</u>	40	国、地方公共団体及び畜 産関係団体の職員で、畜 産職域に配属されて原則 として5年以内の者又は、 当該関連分野を担当する 者、農業に従事する者
15	統計遺伝育種学 (専門)	家 畜 育 種 理 論 の 修 得 の た め 【隔年開催】	1.18 ～1.22	5	家畜育種の概論、 <u>ゲノム情報を利用した家畜</u> <u>育種の概論、演習（BLUPF90ソフトウ</u> <u>ェア等を用いて）</u>	25	畜産関連データの収集・ 分析に携わっており、日 常的に表計算ソフトを利用 している者、農業に従事 する者

NO	講座名	講義内容の概要(項目)	期間	日数	募集人数	受講対象者
16	畜産環境保全 (畜舎汚水処理技術) (専門)	畜産環境を取り巻く諸状況の認識のために	1.25 ～1.29	5	水環境行政の動向、畜産環境対策について、 <u>活性汚泥法汚水処理技術の原理、汚水処理技術の基本、汚水処理施設の設計審査・維持管理に必要な数値(実習演習)、脱窒・硝化処理活性汚泥法、膜分離活性汚泥法</u>	40 畜産職域等に配属された国、地方公共団体、畜産関係団体及び農協等農業生産者団体の職員、農業に従事する者
17	畜産経営A・B (基礎)	経営診断、簿記を通じた畜産経営の見方 【隔年開催】	2.1 ～2.5	5	A：畜産経営会計システム、簿記の技術、演習 B：外部・内部環境分析、マーケティング重視の経営診断、経営診断手法の基本的な考え方、経営診断の実際	25 畜産職域に配属された国、地方公共団体、畜産関係団体の職員及び畜産経営診断、簿記の基礎知識がある者、農業に従事する者
18	畜産行政 (総合)	畜産行政推進の基礎知識のために	2.8 ～2.10	3	国際食糧需給と食料安全保障、畜産行政をめぐる情勢について、飼料自給率向上、食品衛生と畜産物の安全性、JGAPの状況について、食育推進、会計検査制度、マスコミから見た畜産行政、課題討論等	40 国、地方公共団体及び畜産関係団体職員で、当該関連分野(行政職務)に配属されて、原則5年程度の者、農業に従事する者
19	食肉流通 (専門)	食肉流通を取り巻く諸状況の認識のために	2.16 ～2.19	4	基礎知識(食肉流通・表示・食肉加工・畜産副産物・食鳥流通)、食肉処理施設の整備計画、食肉処理・加工の安全対策、食肉流通と関係法規、食肉の格付け、食肉品質評価、食肉衛生(学・行政)概論、生産段階における衛生管理、牛肉輸出の取組	20 食肉流通の安全・衛生に係る指導を行う食肉の処理・加工・流通事業者の職員。又は国、地方公共団体、畜産関係団体及び農協等生産者団体の職員で、当該分野に配属されて、原則5年以内の者、農業に従事する者

NO	講座名		期間	日数	講義内容の概要（項目）	募集人数	受講対象者
20	養鶏 (基礎)	養鶏を取り巻く 諸状況の認識の ために <u>【隔年開催】</u>	3.2 ～3.5	4	鶏卵・鶏肉の生産・流通と消費者ニーズ、生産に係る施設整備、疾病対策、家禽防疫・予防、育種改良、素揚げ生産と鶏卵、卵の加工成分と機能成分の利用、販売戦略、動物福祉と雛生産	30	国、地方公共団体及び畜産関係団体の職員で、当該分野に配属されて、原則5年以内の者、農業に従事する者
21	(時事問題)		未定	未定	未定		
20講座 (除時事問題)							

- (注) ①講座名欄の「講座名(A・B)」は、A(前半)、B(後半)のみの選択受講が可能なことを示す。
 ②従来の開設講座のうち、「畜産統計処理」、「統計遺伝育種学」、「畜産経営A・B」、「養豚」、「養鶏」、「養蜂」は、隔年で開催予定。
 令和2年度は「統計遺伝育種学」、「畜産経営A・B」、「養鶏」、「養蜂」を予定。
 ③「時事問題」講座は、時宜にあった緊急性のある内容とするため、開催時期、開催日数等は未定。
 ④ _____ 下線部の講義は農業従事者が出席することに適した内容となっている。(1日でも受講可能)